



接着剤メーカーが合板工場を関連会社として有するメリットは、顧客である国内合板メーカーから高い信頼感を得られる点だ。新しい合板用接着剤を開発した際には、自分たちで実際に製品を作ってみて試験を繰り返すことができた。

こういつた実験がグループ内でできることが、合板用接着剤の迅速な商品化や国内合板メーカーからの信頼感の醸成につながっている。

その成果の一つが、合板用リグニンフェノール接着剤だ。開発後、新潟合板振興で試験を実施。1月にJASを追加取得すること

## 接着剤と建材で多角的に

### コラボレーションを進める

堀口和秀 オーシカ社長

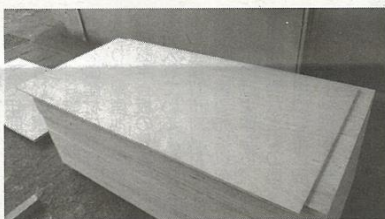
新潟合板振興ではこの迅速な商品化や国内合板メーカーからの信頼感の醸成につながっている。独自の商品開発にも力を入れ、今後は合板を積極的に活用していく可能性もある。

さらに、化成品と合板ではできないような板ではできないような板の新たなコラボレーションの新たな可能性もある。ジャパン建材と共

## ガボン産オクメの単板を活用

### ポスト南洋材に向けた新規樹種も模索

#### 新潟合板振興



Z産ラジアタ松など新たな樹種活用に向けた研究にも取り組んでいる。同社の月間での原材料平均消費量は、新潟県産材を中心とする杉丸太が3800立方、丸太が900立方、南洋材丸太が200立方、南カリ松700立方、南産材400立方とされている。丸太での調達に年々難しくなっている。丸太での調達に年々難しくなっている。丸太での調達に年々難しくなっている。

ガボン産のオクメの種が盛んで、計画的な森林活用が進んでいる。この単板をコンテナで輸入し、既製品を作っていく必要がある。安定調達可能で環境に配慮した木材が世界から探しながら、木材や国産材と組み合わせさせて使っているのがNZ産「いたい」と話している。

田中社長は「南洋材の供給環境が年々厳しくなるなか、我々も南洋材以外の原材料を活用しながら顧客の要望やコストに見合った商品を作っていく必要がある。安定調達可能で環境に配慮した木材が世界から探しながら、木材や国産材と組み合わせさせて使っているのがNZ産「いたい」と話している。

市、田中久社長は南洋材原材料の安定確保を進めるとともに、ニュージランド(NZ産)産ラジアタ松など新たな樹種活用に向けた研究にも取り組んでいる。同社の月間での原材料平均消費量は、新潟県産材を中心とする杉丸太が3800立方、丸太が900立方、南洋材丸太が200立方、南カリ松700立方、南産材400立方とされている。丸太での調達に年々難しくなっている。丸太での調達に年々難しくなっている。丸太での調達に年々難しくなっている。

www.oshika.co.jp

100年に亘り木材の接着剤を作り続けてきた私たち。それは自然の恵みを人の暮らしに役立てるための一つの方法でした。さらにこの先100年は、人と自然が共存できるサステナブルな未来のために、私たちオーシカグループは、挑戦を続けます。

